

せん孔細菌病の『春型枝病斑』の除去を徹底しよう

JA 中野市営農センター
北信農業改良普及センター

1 何故、今年は『春型枝病斑』が多いのか？

せん孔細菌病の『春型枝病斑』は、前年秋期の台風や強い風を伴う降雨で病原菌が芽に感染し、翌年の開花期頃に症状を呈する。

昨年秋季は2つの大きな台風が長野県を通過したため、発生が多いと推測される。

2 せん孔細菌病の『春型枝病斑』をみつけて除去しよう！

(1) 春型枝病斑の特徴

- ア 春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽の元のところが、薄い黒褐色(図1)を呈する。
- イ 春型枝病斑が発生した芽では、花や葉は、展葉後まもなくしおれる。
- ウ 5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は陥没してひび割れる。ヤニを出すこともある。
- エ 枝の先端部に発生することもある。



図1 春型枝病斑(落花期)



図2 春型枝病斑(5月下旬)

(2) 『春型枝病斑』のみつけ方のポイント

- ア 2年枝の『芽』に発生する。多発年でも1樹あたり10数個程度の発生。
- イ 春型枝病斑の発生によって『**枝の先枯れ**』はほとんど起こさない。
- ウ 本年は1～2月の低温により、樹勢の弱い樹や品種によって『**枝の先枯れ**』が多くみられるが、春型枝病斑とは異なるので注意する。
- エ 葉の病徴は茶褐色、不正形の病斑を多数形成する(図3、4)。枝病斑をみつけるためには、葉の被害が多い部分の上部を中心に探す。
- オ 風当たりの強いほ場の外周の樹に『春型枝病斑』は多く、ほ場内部の樹には比較的少ない。



図3 葉の初期病斑



図4 典型的な葉の病斑

「本年のせん孔細菌病防除のポイント」

◎春型枝病斑が多いので、**5月中に除去することを最優先とする！**

◎剪除時期が遅れると被害が増加する。

◎5月までに枝病斑を剪除しないと果実被害が増加する。

◎本年は、薬剤防除だけでは、防除できないので、早く除去することが大切。